

## 第4学年 算数科学習指導案

日時 平成18年9月27日  
会場 洋野町立種市小学校 4年2組教室  
児童 男子14名 女子9名 計23名  
指導者 吉田 和浩

### 1. 単元名 わり算の筆算(2)

### 2. 単元について

#### (1) 教材について

整数の除法の計算は除数が1位数の場合については4学年第3単元で学習している。本単元では除数が2位数で、被乗数が2、3位数の計算方法を指導する。2位数でわる計算は、除数のけた数が増えても計算を進める考え方や手順は同じである。しかし、その手順を形式的に指導するだけでは計算方法の理解と習熟は難しくなる。そのため、商をもとめる「たてる」「かける」「ひく」「おろす」の4つの操作の手順は同じでも、除数が2位数になると「商をたてる」の段階で仮商の修正が必要になることを理解させなければならない。

各段の商を求める際は、商の見当をつけて進めることになる。計算の見積もり、および簡単な暗算の力が必要となる。商の見当をつけたり修正したりすることは、初めての経験なので理解しにくく、習熟にも時間を要する。児童が筆算の各段階の意味が充分理解できるように、1位数でわる除法の計算方法を生かして、2位数でわる計算(筆算)を工夫して答えを出せるような指導の工夫が必要とされる。

#### (2) 児童の実態

本学級は学習に対して意欲的に熱心に取り組む児童が多い。5月に行った算数に関する意識調査では、算数の学習が好きで、その必要性を感じていることが分かった。その反面、算数の学習が「どちらかというと嫌い」「嫌い」の児童が5人であった。この5人は「算数の学習が大切」「算数の学習がわかるようになりたい」と考えていても好きになれない様子が見える。

また、調査結果から楽しいと感じるときは「分からなかった問題が分かるようになったとき」「自分の力で答えができたとき」という回答が多いことから、見通しをもち、自力解決をしていくなかで内容を身につけさせていくことが必要だということが感じられる。

前単元の「わり算の筆算」の学習では、除数や被除数、包含除や等分除について言葉の式との式を使って意味を理解できるような学習を取り入れた。また、初めて学ぶ筆算の計算手順についても繰り返し計算練習に取り組むことで正確に商とあまりを求めることができる児童が増えてきた。しかし、筆算で空位がある場合に商の位を間違えてしまったり、被除数と部分積の減法を間違えてしまったりする児童が4人いる。また、「わる数」「わられる数」「商」「あまり」を意味と数字と対応して考えることが不十分で、式や計算、検算を間違えてしまう児童が2名いる。

そこで、本単元では、わり算の意味と計算のしかたを充分理解できるようにしていくことが必要となる。

#### (3) 指導上の留意点

4年生の第3単元では、本単元の前段階として2～3位数を1位数でわる学習をしている。そこでは、わり算の筆算や検算、乗除混合や連除の学習を行っている。

わり算の筆算は被除数に除数が「いくつ分」あるかという包含除の考え方をもとにしており、その「いくつ分」を求めるために「たてる」「かける」「ひく」「おろす」のアルゴリズムを行い、商を導き出す方法である。この学習において、正しく商を求めるために計算の手順を繰り返し練習することが必要とされる。また、商の正しさを検証するための検算の手順も身につける必要がある。しかし、計算手順の徹底に重点をおいてしまうと、わり算そのものの意味を十分に理解できないでしまう。意味理解が十分なされないと、児童は途中の部分積が何を表すか、「ひいた」結果の数と除数の大きさから仮商を修正することなどが困難になる。また、数字のもつ意味が分からないこと

から検算により、正しい商を求めることが難しくなる。加えて、乗法と除法の関連も見落としてしまいがちになる。

そこで、本単元の学習では、以下の三つについての意味理解を十分にあつかった上で、計算の処理を進めることで児童に定着を図りたい。また、自力解決や学び合いの場面で「考える」ことを中心に扱うことで除法の意味とそのよさにふれさせていきたい。

#### 何十でわる計算

除数が2位数のわり算の前段階で行う。仮商をたてる時に必要な何十÷何十の学習において、被除数や除数を10の束(単位)が「いくつ分」という見方に着目させる。そのことにより、既習事項である2位数÷1位数の計算に帰着させることができる。新しい問題でも、今までの学習を基にできるよさに気づかせたい。

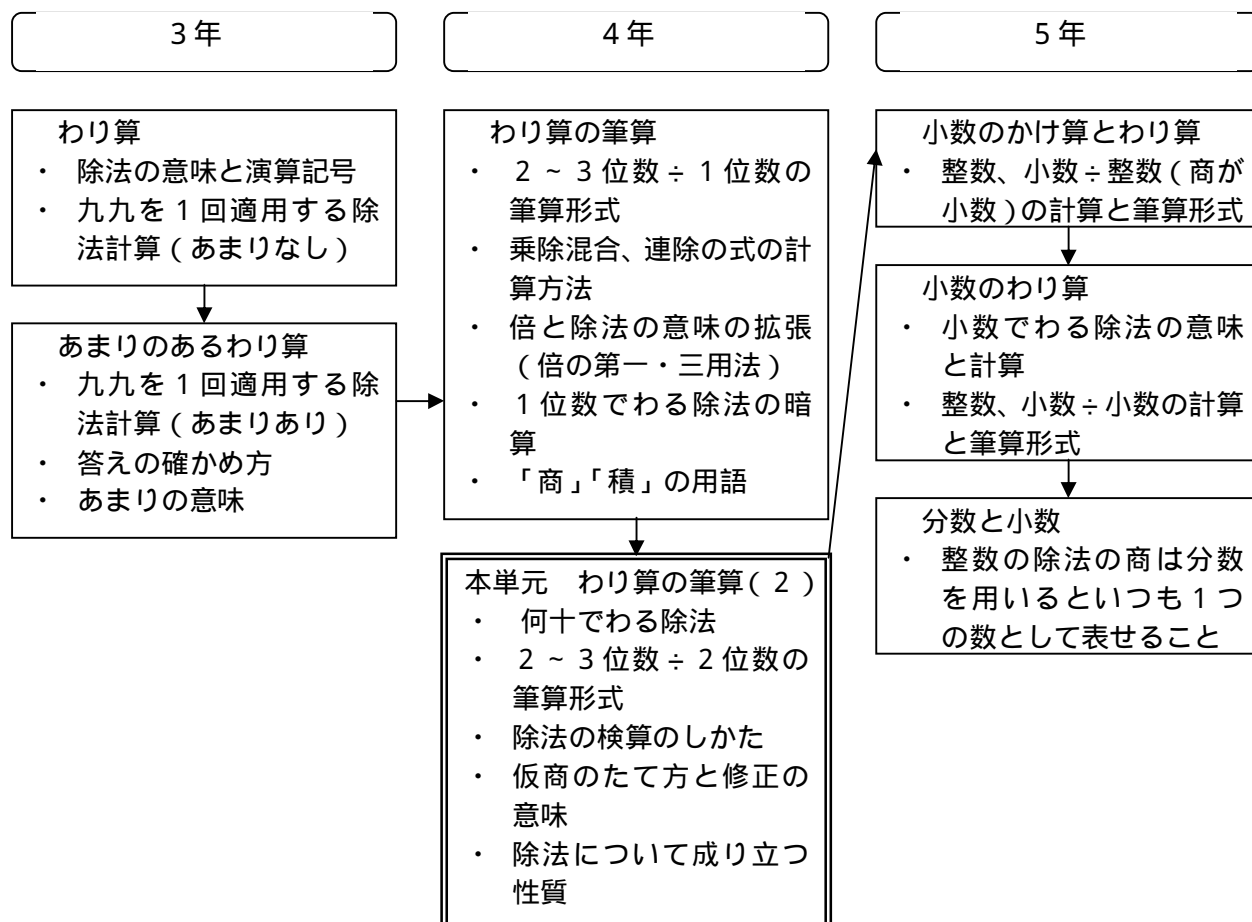
#### 2位数×1位数の暗算と見積もり

児童は第3学年や4年生の前単元で暗算によって積や商を求める学習をしている。暗算で正しく答えをだすことも大切だが、暗算により積や商の見積もりに生かすことも大切である。これは、筆算における部分積を求める仮商を導いたり、過大商、過小商の修正に生かしたりすることができる。暗算と見積もり両者とも、既習の事項であるため、ここでも既習の考え方を生かすことで数における知識と知識の連動が図られる。

#### 除数と被除数を何十とみる見方

2位数でわる筆算では、除数を何十の数とみることで商をたてる。この見方は「四捨五入」の見方にとどまらず、被除数の大きさも考え合わせてみる見方である。除数と被除数を何十と見ることで仮商を素早く、正しく見つけることができる。また、これは、次学年の小数の乗法・除法や分数のそれにも活用できる考え方として大切であるといえる。

### 4. 関連と発展



5. 指導計画 (14時間)

時	目 標	学習活動	評価規準 (観点)	具体的評価規準		
				A : 十分満足できる	B : おおむね満足できる	C : 努力を要する児童への手だて
1	・何十でわる計算(あまりなし)のしかたを理解し、その計算ができる。	・場面をとらえ、立式について考える。 ・ $60 \div 20$ の計算のしかたを考える。 ・ $60 \div 20$ の計算のしかたをまとめる。	・10を単位として、何十でわる計算(あまりなし)のしかたを考えている。(関・意・態)	・被除数と除数を10のたばで考えると1位数÷1位数で計算できることを説明しようとしている。	・ $60 \div 20$ の計算のしかたを既習の学習内容を基に考えようとしている。 ・何十÷何十の計算は、10をもとにして考えると1位数÷1位数で計算できることを考えようとしている。	・10枚ずつの束を用意し、実際に分ける活動を通して、10の束で考えると1桁の除法と同じようにして計算できることに気づかせる。 ・除法、被除法を10の束で図にかかせることで、九九を使って計算できることに気づかせる。
2	・何十でわる計算(あまりあり)の仕方を理解し、その計算ができる。	・場面をとらえ、立式について考える。 ・ $90 \div 20$ の計算のしかたを考える。 ・ $90 \div 20$ の計算のしかたをまとめる。	・何十でわる計算(あまりあり)のしかたを理解している。(知識・理解)	/	・除数、被除数とも10をもとにして考えれば、暗算で「商」「あまり」が出せることを理解している。 ・あまりは、10の束がいくつあることを理解している。	・あまりを1桁にしてしまう児童には、具体物や図をもとにして、あまりは10のたばがいくつ分であるかということを理解させる。
3	・2位数÷2位数(仮商修正なし)の計算の仕方を既習の計算をもとに考えることができる。  (本時)	・場面をとらえ、立式について考える。 ・ $87 \div 21$ の計算のしかたを考える。 ・除数と被除数を何十とみて(切り捨て)商の見当をつける。 ・ $87 \div 21$ の計算のしかたをまとめる。	・2位数÷2位数の計算のしかたを既習の計算をもとに考えている。(考え方)		2位数÷2位数(仮商修正なし)の計算を、除数と被除数が何十の場合の計算をもとに筋道もち、商の見当をつけて考えている。	2位数÷2位数(仮商修正なし)の計算を、除数と被除数が何十の場合の計算をもとに商の見当をつけている。
4	・2位数÷2位数(仮商修正なし)	・ $87 \div 21$ の筆算のし	・2位数÷2位数(仮商修正なし)	2位数÷2位数の筆算の商の見	・2位数÷2位数の筆算の商の見	・商の見当をつけ、かけ算との

	<p>正なし)の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わる数×商+あまり=わられる数の関係を理解し、除法の検算ができる。</li> </ul>	<p>かたを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<math>87 \div 21</math>の筆算のしかたをまとめる。</li> <li>・<math>87 \div 21</math>の検算をする。</li> <li>・上記の計算練習をする。</li> </ul>	<p>の筆算のしかたを理解している。(表現・処理)</p>	<p>当のつけかたと部分積の意味を説明できるとともに、検算を取り入れて問題を解決している。</p>	<p>当のつけかたと部分積の意味を説明でき、問題を解決している。</p>	<p>式を使って解決できることを理解させる。</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2位数÷2位数の筆算で過大商を立てたときの仮商修正の意味と、そのしかたを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<math>86 \div 23</math>の筆算のしかたを考える。</li> <li>・除数を20(切り捨て)とみて、商の見当をつける。</li> <li>・過大商の場合の仮商修正1回のしかたを理解し、この型の計算練習をする。</li> <li>・<math>81 \div 12</math>の筆算のしかたを理解する。</li> <li>・過大商の場合の仮商修正2回のしかたを理解し、この型の計算練習をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・過大商をたてたときの仮商修正の筆算ができる。(表現・処理)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2位数÷2位数の筆算について、仮商修正のやりかたを理解し、念頭で正確に処理している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・除数、被除数の大きさを比べ、商の見当をつけて筆算に臨み、商が大きすぎた場合には、商を修正して計算し直している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商の見当のつけかたを想起させるとともに、部分積が被除数より大きくなってしまった場合は、商を1小さくすればよいことを個別指導する。</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2位数÷2位数の筆算で過小商をたてたときの仮商修正のしかたを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<math>78 \div 19</math>の筆算のしかたを考える。</li> <li>・除数を20(切り上げ)とみて、商の見当をつける。</li> <li>・仮小商の場合</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・過小商をたてたときの仮商修正の筆算ができる。(表現・処理)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2位数÷2位数の筆算について、仮商修正のやりかたを理解し、念頭で正確に処理している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・除数の一の位の数に着目して何十に近いかを判断し、商の見当をつけることができる。また、商が小さすぎた場合は、修正して計算している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商の見当のつけかたを想起させるとともに、あまりが除数より大きくなった場合は、商を1大きくすればよいことを個別指導する。</li> </ul>

		合の仮商修正のしかたを理解し、この型の計算練習をする。				
7	・除数を切り捨て、切り上げの両方による仮商修正のしかたを比較し、自分が考えやすい除数の処理のしかたを考える。	・ $87 \div 25$ の筆算のしかたを考える。 ・除数を切り捨てた(過大商)場合と、切り上げた(過小商)の筆算のしかたを比べる。 ・仮商をたてやすい除数の処理のしかたを考える。	・仮商をたてやすい除数の処理のしかたを考えようとしている。(関・意・態)	・2位数 $\div$ 2位数の筆算について、被除数と除数の関係を考え、除数の一の位を切り捨てるか、切り上げるかを判断しようとしている。	・25を20とみたときと30とみたときの商の見当のつけかたを区別しようとしている。 ・除数を切り捨てるか切り上げるかについて、自分の考えやすい処理のしかたで取り組もうとしている。	・25は20とも30ともみられることを理解させ、商の見当をつけさせる。 ・過大商をたてた場合の仮商修正のしかたと、過小商をたてた場合の仮商修正のしかたを前時までの学習をもとに考えさせる。
8	・3位数 $\div$ 2位数 = 1位数の筆算の仮商のたてかたを理解し、その計算ができる。	・ $153 \div 24$ の筆算のしかたを考える。 ・計算練習をする。	・3位数 $\div$ 2位数 = 1位数の筆算ができる。(表現・処理)	・被除数が3位数になった場合も、仮商修正を念頭で行うことができ、筆算で正確に処理している。	・被除数が3位数になった場合も商の見当をつけることができ、筆算で処理している。	・除数を10倍すると被除数より大きくなることから、商は10より小さいことを理解させる。 ・被除数が3けたになった場合の商の見当のつけかたを個別指導する
9	・3位数 $\div$ 2位数 = 2位数の筆算のしかたを考え理解する。	・場面をとらえ、立式について考える。 ・ $345 \div 21$ の筆算のしかたを考える。	・既習の計算のしかたをもとに筆算のしかたを考えている。(考え方)	・3位数 $\div$ 2位数の筆算について、商を十の位にたてることや部分積の意味を説明することができ、既習のわり算の筆算の手順と同じであることを考えている。	・被除数を10のまとまりで考え、商を十の位にたてることを考えている。 ・既習の手順をもとに、一の位にも商を立てることができることに気づいている。	・ $340$ を10のまとまりでみると34束になることをもとに、それを21でわると1人分はいくつか考えさせることで、十の位の商を考えさせる。
10	・3位数 $\div$ 2位数 = 2位数の筆算のしかたを理解しその計算ができる。	・ $345 \div 21$ の筆算のしかたをまとめる。 ・上記の型の計算練習をする。	・3位数 $\div$ 2位数 = 2位数の筆算のしかたを理解している。(知識・理解)		・3位数 $\div$ 2位数の筆算も既習のアルゴリズム(「たてる かける ひく おろす」)で計算できることを理解し、	・既習のわり算の筆算の手順と比べ、どのように計算が成り立っているかを考えさせる。 ・被除数の上の2

					問題を正しく解決している。	桁の数字と除数の大きさから、十の位にたつ商を考えさせる。
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商に0がたつ場合(商が何十)の簡便な計算のしかたを理解する。</li> <li>・学習内容に習熟する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<math>941 \div 23</math> や <math>960 \div 16</math> の筆算のしかたを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3位数<math>\div</math>2位数 = 2位数の筆算ができる。(表現・処理)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被除数が3位数の場合でも、仮商修正を念頭で行うことができ、正確に筆算で処理している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習のわり算の筆算の計算方法をもとに、商に0がたつ理由を説明する。また、省略した形の筆算をしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・十の位に商をたてた後のあまりが、除数より小さくなっている場合は一の位にどんな数字をたてるか考えさせる。</li> </ul>
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・除法について成り立つ性質を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商が等しいわり算の式を見比べて除法の性質について考える。</li> <li>・<math>150 \div 50 = 3</math> と <math>15 \div 5 = 3</math>、<math>30 \div 10 = 3</math> の関係を調べて、除法の性質をまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な場面から、被除数、除数と商の関係を考えている。(考え方)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<math>150 \div 50</math> と等しい商になるわり算の式を <math>15 \div 5</math> の他に考えることでわり算のきまりに気づこうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<math>150 \div 50</math> と <math>15 \div 5</math> の商が等しいわけについて、10のまとまりで数字を見る考え方を使って説明しようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・150が15、50が5となっていることに着目させ、両方とも10でわっていることに気づかせる。また、それは10の束で考えている式であることをとらえさせる。</li> </ul>
13	<ul style="list-style-type: none"> <li>・末尾に0のある数の除法の簡便な計算のしかたとあまりの求め方を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<math>3200 \div 400</math> の筆算のしかたを考え、末尾に0のある数の除法の簡便な計算のしかたをまとめる。</li> <li>・<math>2700 \div 400</math> の筆算のしかたと、末尾に0のある数の除法でのあまりの求め方を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・末尾に0のある数の簡便な計算ができる。(表現・処理)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わり算のきまりを使って、末尾の0を処理しながら、簡便な方法ですばやく正しく計算している。</li> <li>・あまりの大きさを正確に処理している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わり算のきまりを使って、末尾の0を処理しながら、簡便な方法で計算している。</li> <li>・あまりの大きさを正確に処理している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の学習を振り返り、被除数と除数を同じ数でわっても商は変わらないことから、両方をどんな数でわればよいかを考えさせる。</li> <li>・処理した0の数をもとに、あまりの大きさを考えさせることで、正しく計算できるように支援する。</li> </ul>
14	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習内容の理解を確認する。</li> <li>・学習内容の理解を深め、算数への興</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「力をつけよう」に取り組む。</li> <li>・世界の国々のわり算の筆算のしか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界のわり算のちがいをを見つけようとする。(関・意・態)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国の方法でわり算の筆算をする活動を通して、外国のわり算と日本のわり算の共通点と相違点</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国の方法でわり算の筆算をする活動を通して、外国のわり算と日本のわり算の共通点について、</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国の方法でわり算の筆算をする活動を通して、外国のわり算も日本のわり算と同じ数字がでて</li> </ul>

	味を広げる。	たを比べる。		について、学習感想に記述しようとしている。	学習感想に記述しようとしている。	きていることや計算の順序が同じことに気づかせ、学習感想に記入しようとする。
--	--------	--------	--	-----------------------	------------------	---------------------------------------

## 6. 単元の目標

筆算の形式による2～3位数を2位数でわる除法の計算のしかたについて理解し、それを適切に用いる能力を伸ばす。

<関心・意欲・態度> ・除数が2位数の除法計算のしかたを、既習の除法計算のしかたをもとに進んで考えようとする。

<数学的な考え方> ・見積もりをもとに、仮商の立て方や修正のしかたについて考える。

<表現・処理> ・除数が2位数の除法計算を正確に筆算することができる。

<知識・理解> ・除数が何十の除数計算のしかたを理解する。

・除数が2位数の除数の筆算のしかたを理解する。

## 7. 本時の指導

### (1) 本時の目標

2位数÷2位数(仮商修正なし)の計算を、除数、被除数ともに見当をつけて考えることができる。

### (2) 本時の指導にあたって

計算の処理のみに偏ることなく、計算の意味理解をめざす。そのためにも、児童個々に見通しをもたせて一人学びを行わせ、多様な考えに気づかせたい。また、学びあいでは中心となる考え方をもとにして除法計算の意味を理解させたい。

### (3) 本時の展開

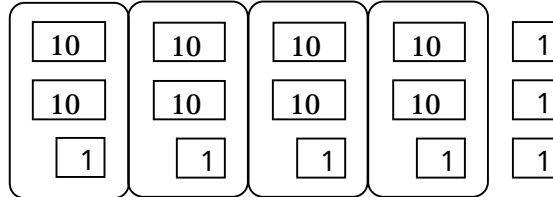
段階	学習過程	学習活動	留意点(は評価)
導入 7分	1 問題把握	<p>問題</p> <p>色紙が87まいあります。1人に21まいずつ分けると何人にわけられて何まいあまりありますか。</p> <p>気がついたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>式を立て、そのわけと意味を考えさせる。(わり算、被序数、除数、何をもとめるのかなど)</li> <li>前時の学習との違いを考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題を把握させる</li> </ul>
	2 課題把握	<p>87÷21の計算のしかたを考えよう。</p> <p>解決の見通しをもつ</p> <p>ア 図 イ かけ算 ウ の式 エ 見積もり</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>なぜわり算になるのか根拠を説明させる。</li> <li>既習のわり算を想起させ、被除数と除数の末尾が0でないことを確認する。</li> <li>掲示などを用い、前時までの学習に立ち返ることで児童に課題意識をもたせる。</li> </ul>

展開  
28分

3 一人学び

自力解決する

ア 図



- ・ 21が4つ
- ・ 4人に分けられて3まいあまる。

イ かけ算

$$21 \times 1 = 21$$

$$21 \times 2 = 42$$

$$21 \times 3 = 63$$

$$21 \times 4 = 84 \quad 87 - 84 = 3$$

- ・ 21が4つ
- ・ 4人に分けられて3まいあまる。

ウ  $21 \times \quad = 87$  に4が入ると87に近い

$$21 \times 4 = 84 \quad 87 - 84 = 3$$

- ・ 21が4つ
- ・ 4人に分けられて3まいあまる。

エ 何十と考える

$$80 \div 20 = 4$$

$$21 \times 4 = 84 \quad 87 - 84 = 3$$

- ・ 4人に分けられて3まいあまる。

4 学び合い

考えた方法について話し合う

それぞれの考え方を比べて気付いたことを発表する。

- ・ どの考え方も21がいくつ分と考えていることに気づく。
- ・ どの考え方もかけ算の考え方をもとに商の4を求めている。
- ・ かける数が1～4のかけ算は を求める方法であることに気づく。
- ・ 仮商の4を速く見つけられる方法は見積りであることに気づく。

5 類題を解いて  
一般化する

$$98 \div 31$$

6 課題のまとめ

まとめ

87 ÷ 21のような計算をするときは、わられる数と、わる数を何十とみて計算すると答えを見つけやすい。

2位数 ÷ 2位数の計算のしかたを既習の計算をもとに考えている。

・ 考えがまとまらない児童には、何算を使えばいいかを、前時までの学習を振り返らせながら解決できるようにさせる。

・ 一つの方法で解決できた児童には、別の方法でも考えるようにさせる。

・ どの方法でも答えを求められることができたことを全体で確認する。  
・ 4つの考えとも21のまとまりがいくつ分かと考えているという共通点で統合する。  
・ 商の見当をつけることで速く答えを出せることを確認する。

・ 学習したことの妥当性を確かめ、正しく理解するために全員と一緒に問題を解く。



終末 10分	7 練習	練習問題を解く	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習を振り返り、分かったことや感じたこと、気づいたことなどについて発表させる。</li> </ul>
	8 振り返り	学習を振り返る <ul style="list-style-type: none"> <li>・分かったこと、感じたこと</li> </ul>	

(4) 評価

観 点	評 価	具体の評価規準		
		充分達成	概ね達成	努力を要する児童への手立て
数学的な考え方	2位数÷2位数(仮商修正なし)の計算を、見通しを立てて考える。	2位数÷2位数(仮商修正なし)の計算を、除数と被除数が何十の場合の計算をもとに筋道をもち、商の見当をつけて考えている。	2位数÷2位数(仮商修正なし)の計算を、除数と被除数が何十の場合の計算をもとに商の見当をつけている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図、かけ算などで解決したことを の式で表せるように支援する。</li> <li>・商の見当のつけかたについては、前時の学習を振り返り、除数の一の位を切り捨てて考えることと何十÷何十の計算をもとにすればよいことを個別指導する。</li> </ul>

# 板書計画

## 9/27 わり算の筆算を考えよう

問 色紙が87まいあります。この色紙を1人に21まいずつ分けると何人に分けられて、何まいあまりますか。

課題  
87÷21の計算のしかたを考えよう。

まとめ  
87÷21のような計算をするときは、わられる数と、わる数を何十とみて計算すると答えを見つけやすい。

分けられる→わり算

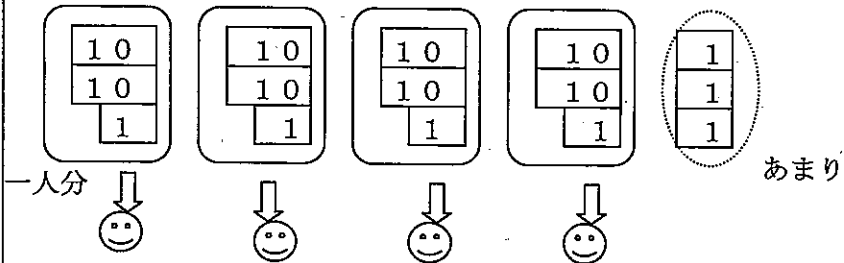
式  $87 \div 21 = 4$  あまり 3  
 答え 4人にわけられて3まいあまる

- 《とき方》
- ・ 図
  - ・ かけ算
  - ・ □の式
  - ・ 何十とみて

### 《自力》

○図

全部の数



○かけ算

$$21 \times 1 = 21$$

$$21 \times 2 = 42$$

$$21 \times 3 = 63$$

$$\underline{21 \times 4 = 84} \quad 87 - 84 = 3$$

一人分 商 わけられた数

- ・ 4人にわけられて3まいあまる。

○□の式

$$21 \times \square = 87$$

□に4が入ると87に近い。

$$\underline{21 \times 4 = 84}$$

一人分 商 わけられた数

$$87 - 84 = 3$$

全部の数 わけられた数 あまり

- ・ 4人にわけられて3まいあまる。

《学び合い》

$$87 \div 21 = 4$$
 あまり 3  

$$\underline{21 \times \square = 87}$$

20とみる ↑ 80とみる  
4に近い

$$21 \times 4 = 84$$

$$87 - 84 = 3$$

- ・ 4人にわけられて3まいあまる

何十と見ると□の数字を見つけやすい

《問題》

$$98 \div 31 =$$

$$\underline{31 \times \square = 98}$$

$$31 \times 3 = 93$$

$$98 - 93 = 5$$

《練習問題》

$$89 \div 43$$

$$67 \div 22$$

$$48 \div 12$$